

SSC
埼玉県障害者社会参加
推進
セシチたより

令和2年6月30日 125号

編集
埼玉県障害者社会参加推進センター
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
県障害者交流センター内
TEL 048-825-0707
FAX 048-825-3070
メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
HPアドレス <http://saitama-shokyo.org/info/>
発行 NPO法人埼玉障害者センター
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
価格 一部100円(会費に含まれます)
発行日 10日・20日・30日

埼玉県障害者社会参加推進センター事業の概要

～令和元年度の事業報告を中心にして～

埼玉県障害者社会参加推進センター長

田た
中なか
一はじめ

県社会参加推進センターを運営

する】

①障害者社会参加推進協議会

各実施団体会議の開催

障害者社会参加推進事業の各

団体の合同会議を開催して、事

業に対する相互の理解を深める

とともに意見交換を行いました。

効率的・効果的な事業が展開

奇玉異章寄着士公參呂惟進

第三回(四月)生徒会の総会と各実施団本会議の開

催
〔第1回〕 期日…令和元年8

月10日(土)出席者..19名

内容・研修会「横浜市障害者社

会参加推進センター事業の概要

について【第2回】令和2年2月

年事業

※新型コロナウイルス感染拡大影響により書面開催 内容・社会参加推進事業実施団体による事業の進捗状況の報告・令和2年度事業計画にあたって

②センターだよりの発行

●編集委員会の開催（4回／年）
●センターだよりの発行（各1
600部・視覚障害者用テープ
化8本）年4回（6月・9月・
12月・3月の30日）発行

③加盟団体リーダー研修会の開催

加盟団体の代表者等に埼玉県
地域福祉支援計画を学び、団体
の活動に資することを目的に開
催しました。日時・令和元年11
月16日（土）出席者・22名 内
容・第5期埼玉県地域福祉支援
計画について障害者にかかる
計画を中心にく

講師・中島 修氏（文京学院大
学准教授・埼玉県地域福祉推進
委員会委員長）

④インターネット運営事業（通

県障害者社会参加推進事業のさらなる認知度を高めるため、ホームページ上で参加者の募集などの広報活動を行い、県内障害者の社会参加に貢献できるよう努めました。実施期日..平成31年4月1日～令和2年3月31日 H.Pアドレス：<http://saitama-shokyo.org/info/> 又は<http://saitama-shokyo.org/information/moro/>

⑤障害者の生活訓練事業の開催 様々な講習会や体験を通じて、障害者が日常生活を快適に過ごせるよう、必要な支援や訓練と交流及び余暇活動の充実を図るため、各障害者団総事業実施回数..91回 総事業参加人数..2596名、各団体の協力のもと開催しました。

(共催団体..下記の表 参照)

⑥障害者ＩＴサポートセンター事業運営

事業目的..①障害者のパソコン等利用に関する相談と自宅等への訪問サポート②支援するための

パソコンボランティアの養成③障害者のパソコン習得のためのパソコン室の環境整備等 ツボラ等連絡件数・事業実績..

事業実績..・障害者ＩＴ利用相数・事業実績..239件

⑤生活訓練事業の開催

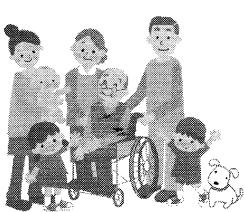
生活訓練事業共催団体	実施事業
(社福)埼玉県身体障害者福祉協会	自動車運転技能講習会、料理講習会、歩行訓練、
(公社)埼玉県視覚障害者福祉協会	歩行訓練、施設見学、日常生活用具勉強会、声かけ推進活動
埼玉視覚障害の生活と権利を守る会	うたげえ交流会、視覚障害者の福祉制度勉強会、あはき情勢学習会
NPO法人埼玉県盲人福祉協会	盲人用機器使用訓練事業、ぶどう狩り等会員交流会
(一社)埼玉県聴覚障害者協会	労働サロン、医療講演会、コミュニケーション情報学習会等各種講座
埼玉県精神障害者家族会連合会	自立生活研修会、作品展示会
(公社)埼玉県手をつなぐ育成会	知的障害者が地域で生活するための各種講座(防災・避難所訓練、料理教室等)
埼玉盲ろう者友の会	コミュニケーション勉強会、盲ろう者の講演
埼玉肝臓友の会	肝臓病講演会
コールファミリー	発生及び合唱教室
NPO法人埼玉県障害者協議会	障害者のための研修旅行・施設見学

514件・個別サポート訪問件数・事業実績..239件

2 令和2年度事業について

令和2年度事業も令和元年度と同様の事業を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大の防止対策をとりながらの事業執行となります。実施にあたっては相当困難が予想されます。事業によっては変更、中止というようなことも想定されますが、実施団体と緊密に連携を図り実施していきたいと考えています。

県内障害者の社会参加と共生社会を目指すため、事業のさらなる充実とニーズを踏まえ、より一層の参加者の拡大に努めます。皆様の御支援と御協力をお願いいたします。





造形教室の様子

埼玉県障害難病団体協議会では、加盟団体ほか難病患者とご家族の皆さんに呼びかけて、日常生活の向上をはかるために、次のような訓練事業を行つております。

①**造形教室**：各回のテーマごとに多種のアート材料を、各自のデザインセンスで選択、工夫する楽しさを共有して交流をはかり、作品制作を通じて手先のリハビリを行う。

②**コーラス**：準備体操、ボイストレーニングを通して自律神経を整え精神安定と体力増強をはかる。また、皆で懐かしい歌を楽しく歌うことでき心身の健康増進につながる。

③**料理教室**：調理と食事会を通じて患者に必要な栄養バランスや、カロリーを考えたり、手の力が要らない調理法の工夫等を学びながら、交流をはかる。

右記のように3コースを年に3回ずつ計画して毎年実行して

難病患者と家族の訓練事業

一般社団法人

埼玉県障害難病団体協議会

相談員

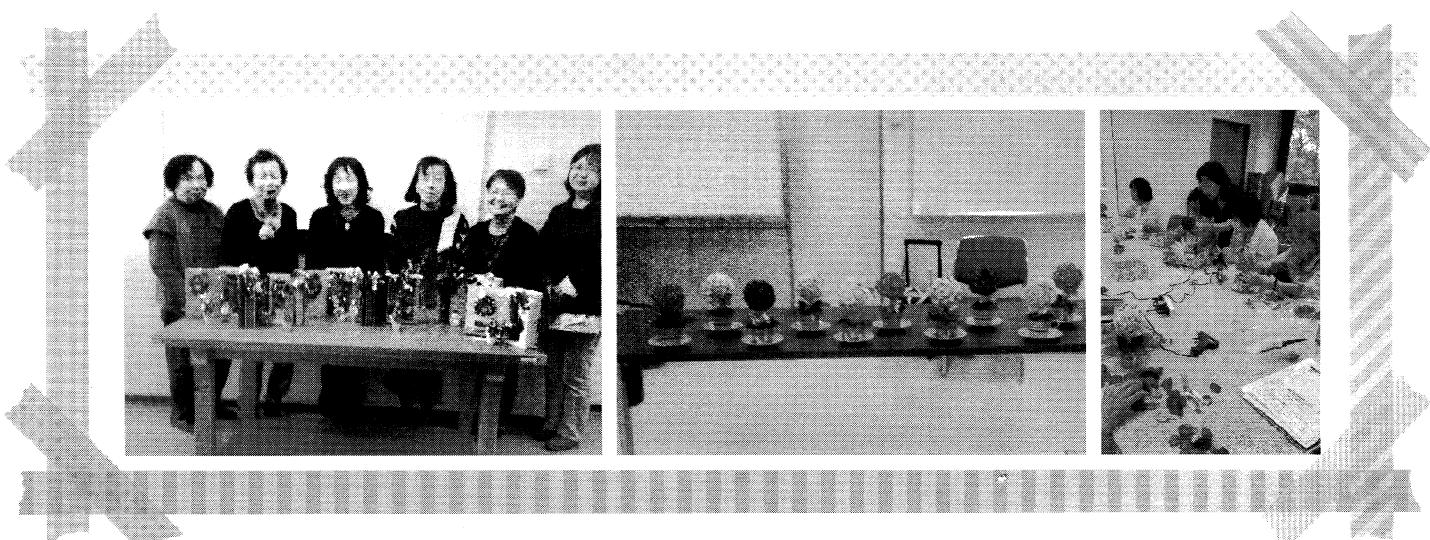
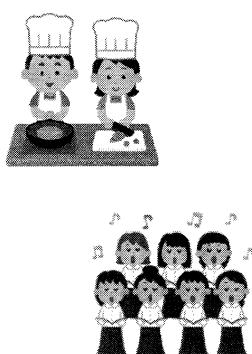
松丸 まつまる
和子 かずこ

おります。和氣あいあいと皆で助け合いながら楽しくやっております。

昨年は各教室を2回ずつやりまして、あと3回残っていたのですが、今年に入り、突然のよう新型コロナウイルスが世界中に蔓延してしまいました。当然のことながら、この訓練事業は残り3回が中止となってしまいました。

令和二年度は就労訓練・コラス・料理を計画致しました。

これからのお達に出来ることは自分はもちろん、大切な人を守るために人との接触を抑える以外に方法はありませんので、皆で規律を守りながら日々を暮らし、そして楽しく集える日を待ちわびています。



コロナウイルス感染の拡大と埼視会

埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会

平野 ひらの
力三 りきぞう

新型コロナウイルス感染症の

拡大とそれへの対策によって、私たちの生活は一変しました。

1月中旬、中国武漢のニュースを目にした時、その後の状況

を誰が予見できたでしょうか。

国・自治体がさまざまな対策を講じる中、私たちの生活にも仕事にもいろいろな影響が及んできました。

4月中・下旬、その実態を会員からメールや電話で教えていただきました。マスクが手に入りにくい、消毒薬が買えない、お店の休みや営業時間の短縮で買い物がしにくいなどの声は、皆さん共通でした。

会員の多くが携わっている
あはき(あん摩、マッサージ、鍼・灸)
業への影響について

利用できる制度の紹介と相談活動

あはき業は、医療職種である

ために、休業要請の対象ではあ

りません。そのため、出張治療などを自粛しても、自治体から協力金を受けることはできません。

私たちの全国組織・全視協では、利用可能な給付金制度を機関紙で特集し、会員からの相談に応じる取り組みをしています。

会会員の治療院経営者数人が持続化給付金を申請しています。

によるものと考えられます。

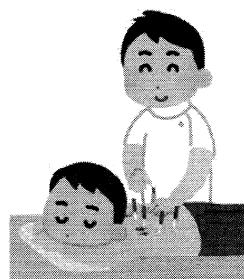
一方、企業内でその職員に施術するヘルスキー・バーの方々は、全員自宅待機でした。「密接」から「感染」という図式に配慮した経営者の考えによるものと思われます。

この内容はさまざまなのでしょうが、「ソーシャルディスタンス」一つとっても視覚障害者は、苦手です。障害者への「声掛け」も少なくなるのではと心配です。

加えて、あはき業の現場に患者が帰ってくるのかどうかも気になるところです。

いずれにしても、生活に視覚障害者としての新たな知恵が必要になつてくるものと考えています。

新たな日常に即した生活



コロナ対策に関する政府の専門家会議は、「対策は、長丁場の取り組みになる」との見解を示しています。「新たな日常」ということも言われています。

コロナ対策に関する政府の専門家会議は、「対策は、長丁場の取り組みになる」との見解を示しています。「新たな日常」ということも言われています。

新型コロナウイルス感染拡大中の

日本オストミー協会埼玉県支部の活動状況

日本オストミー協会 埼玉県支部 葛西 誠



目に見えない新型コロナウイルスとの戦いは、放射能による東日本壊滅の危機に直面した2011年3月のふくしま第一原発事故に酷似しています。あの時、福島第一原発に残った名もなき作業員たちは、Fukushima 50と呼ばされました。ストレスや恐怖と戦い、危機を乗り越えるために命がけで戦つたのです。

今、医療の現場でも、医療従事者もストレスや恐怖に我慢して戦っています。病と闘つて生きたいと、つらい治療と闘っている患者さんもいます。國家の危機に最も求められるのが、リーダーの決断に対し国

民が積極的・自主的に協力する「ファローシップ」です。どんなに優れたリーダーがいても、それに国民が協力しないようでは何事もうまくいきません。指導者のリーダーシップと、国民のファローシップが一体となつて初めて国家の危機管理は成功するのです。

生きていることだけでも幸せなのだと、皆が思うことが大切なのです。安易に外出して、密集、密閉、密接のところには絶対行かない事を守る私達の行動が、新しい患者さんを作らないことに通じるのです。

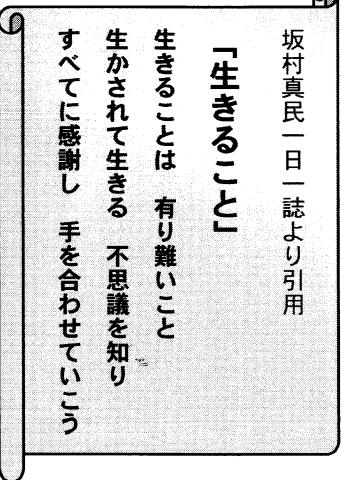
医療従事者も、ストレスや恐怖に我慢して戦っています。私は世界でも類がないことなので、中国型とも欧米型とも違う、民度の高さでパンデミックを押さえ込むという日本型対策の有効性を世界に示すことができれば素晴らしいことだと思います。

- 1、4月24日予定支部会は、5月2日に延期、事務所にて少人数で開催、今年度の活動計画が承認されました。
- 2、第32回全国大会は6月21日北海道開催予定を中止、6月20日に東京で第32回社員総会のみが、各地区の代議員が参加して開催されます。
- 3、支部定例役員会及び事務所当番体制等は縮小して活動します。
- 4、5月29日予定日帰り研修は中止、また同好会等の月例会も当面中止とします。
- 5、今後の医療研修会・相談交流会等の開催については、今后の状況を的確に判断しながら決めていきます。

坂村真民一日一誌より引用

「生きること」

生きることは 有り難いこと
生かされて生きる 不思議を知り
すべてに感謝し 手を合わせていこう



ご相談、お受けしています



埼玉県社会福祉協議会 権利擁護センター 石田 和保

新型コロナウイルスの影響でこれまでの生活は激変し、不安な気持ちと向き合いながら日々生活をされている方は多いと思います。

権利擁護センターでは、障害のある方を対象とした相談事業を実施しています。※FAXはすべて(048)821-1406です。相談日は月曜日から金曜日(祝祭日、年末始を除く)です。

●**権利擁護相談**
障害のある方や認知症高齢者ご本人やご家族等からの生活上の困りごとにについてご相談に応じます。相談内容によって専門的な相談機関をご紹介することもあります。また、弁護士や司法書士による法律相談(予約

時から午後5時)

8) 822-1297(午前9

時から午後2時30分です。

また、ご本人の状況によっては成年後見制度の利用が必要な

場合があります。また、弁護士や司法書士による法律相談(予約

●**障害者虐待に関する相談**

障害のある方の職場での虐待について届出・通報等の受付や

施設従事者・職場での虐待のい

うです。(市町村では、養護者・施設従事者・職場での虐待のい

うです。(市町村では、養護者・施設従事者・職場での虐待のい

制)も行っています。(連絡先・受付時間)(048)821-1204・1240(午前9時から午後4時)※法律相談は、毎週水曜日・金曜日の午後1時から午後2時30分です。

●**日常生活自立支援事業(あんしんサポートねっと、さいたま市はあんしんサポートさいたま)**

障害や認知症によって判断能力が十分ではない人を対象に、

障害を理由とした不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供といった、障害を理由とする差別に関するご相談に応じます。

なお、障害を理由とする差別に関するご相談は地域における理解の促進が不可欠なため、まずはお住まいの市町村に設置されている相談窓口へご相談ください。(連絡先・受付時間)(048)822-1297(午前9時から午後5時)

権利擁護センターでは、生活上の困りごとや不安なことなどについてお話を伺い、助言や情報提供等をします。何かあります

場合があるため、成年後見制度についてのご相談にも応じます。(連絡先・受付時間)(048)822-1194・1299(午前8時30分から午後5時15分)※成年後見制度についてのご相談は、権利擁護相談でも応じます。



望の際は、可能な限り事前にご連絡いただくようお願いします。

【加盟団体活動紹介 第十六回】

埼玉県自閉症協会

一般社団法人日本自閉症協会

の埼玉県における唯一の加盟団体として、埼玉県に在住する自閉スペクトラム症（自閉症・高機能自閉症・アスペルガー症候群等）の子どもを持つ家族が中心となって運営している「家族と支援者の会」です。

設立年 昭和48年（

395名



4月2日の世界自閉症啓発デー

会員対象

正会員…埼玉県在住で、自閉スペクトラム症の子どもを持つ家族（未診断であっても当会の活動趣旨に賛同いただける方であれば入会可能）

賛助会員…家族以外で、当会の活動に賛同してくださる方や専門職の方等

※正会員、賛助会員とも個人会員のみであり団体会員は受付不可。

が、まだまだ家族の悩みは尽きません。今後も自閉スペクトラム症のある子ども達とその家族の福祉の向上及び社会参加の促進を図り、安心して笑顔で暮らせる埼玉県となるように、活動を続けていく所存です。

目的

「江北へ行つても「何んな子は学校教育の対象外だ」と言っていた時代。「この子らの教育の場をつくるう！」という運動

から、昭和48年5月13日に63名の親により「埼玉県自閉症児親の会」として設立されました。

諸先輩方のご尽力により、教

発行会報誌

いとじゅ増刊「すまいる」

7・11・2月
(年3回発行・その他年数回の号外発行あり)

活動紹介

当会は現在、正会員・賛助会員合わせて約400名となり、4月2日の世界自閉症啓発デーに合わせての啓発活動、夏には埼玉県特別支援学校校長会・教頭会と共に「自閉症支

援トレーニングセミナー」の開催、埼玉県・さいたま市の委託事業として「ペアレンツメント事業」の実施等、行政と連携しての事業のほか、各種研修会や作品展の開催、県内6地区に分かれての地区活動、専門部会活動等、多岐にわたる活動を行っております。時代の流れと共に、私達親の会の在り方も問われていますが、私達は自閉スペクトラム症のある子ども達とその家族の笑顔のため、ぶれることなく活動を続けていきたい

ホームページ

有り

<http://as-saitama.com>



研修会の様子

埼玉県障害者交流センター着任にあたつて



埼玉県障害者交流センター

所長 黒澤 隆久

4月1日付けで埼玉県障害者交流センター所長に就任いたしました。特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会の皆様には、日ごろより、当センターの運営に格別のご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

当センターは、身体障害者福祉法に基づく「身体障害者福祉センターA型」施設として、1990年に設立されました。「障害のある人もない人も互いに支えあい、地域でいきいきと暮らせる社会の実現」をめざし、障害者のスポーツ活動や文化・創作活動の拠点として様々な事業を行っています。

また、近年では「地域支援事業」にも力を入れており、当センター職員が県内各地に出向いてスポーツ教室や文化・創作教室を開催しています。おかげさまで、毎年20万人を超える多くの方々にご利用いただき、設立以来の利用者は延べ595万人となりました。

今後とも、利用者の皆様から「利用してよかつた。」と言つて喜んでいただける施設となるよう微力を尽くしてまいります。

さて、埼玉県障害者協議会は1981年の「国際障害者年」を契機に県内の障害者関係

日々の交流や年2回の「運営連絡会議」を通じ、当センターの運営にも貴重なご意見を聞いています。

ところで、今年は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、私たちの生活は大きな影響を受けました。当センターも3月2日以降臨時休館を余儀なくされ、当センターを会場に定期総会等の開催を予定されていた関係団体の皆様にもご迷惑をおかけしました。また、東京バラリンピックの開催も一年延期となり、せっかく盛り上がった障害者スポーツへの関心に水を差す結果となりました。

◆ 編集後記 ◆

令和2年も気が付けば半
年が過ぎました。

春の間コロナウイルス感染症の暗いニュースばかりでしたが、その間も桜は変わらず綺麗に咲いていました。今季節は変わり、もう紫陽花が色づいています。植物達の逞しさに、私もそうありたいなと思いました。

990年に設立されました。障害のある人もない人も互いに支えあい、地域でいきいきとらせる社会の実現」をめざす、障害者のスポーツ活動や文・創作活動の拠点として様々事業を行っています。

今後とも、利用者の皆様から
「利用してよかったです。」
と言つて喜んでいただけの施設
となるよう微力を尽くしてまい
ります。

れ、当センターを会場に定期総会等の開催を予定されていました関係団体の皆様にもご迷惑をおかけしました。また、東京バラリンピックの開催も一年延期となり、せっかく盛り上がった障害者スポーツへの関心に水を差す結果となりました。

・障害者のスポーツ活動や文
創性活動の拠点として様々
事業を行っています。

さて、埼玉県障害者協議会は1981年の「国際障害者年」を契機に県内の障害者関係

り、せつかく盛り上がり始めた障害者スポーツへの関心に水を差す結果となりました。

団体が集まり、今年は設立40周年という節目の年を迎えるとした。埼玉県の障害者施策の充実、差別の解消、共生社会の実現などをめざし、様々な活動を積極的に行っておられます。埼玉県障害者協議会をはじめ14の団体は、当センター内の「団体交流室」で活動されており、日々の交流や年2回の「運営連

今後も当分の間、新型コロナウイルスの影響が様々な形で現われるかと思いますが、利用者の安全を第一に施設運営を行うとともに、様々な事業を通じて障害者福祉の向上に努めてまいりますので、埼玉県障害者協議会の皆様におかれましては、引き続きご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今季食は変わり
陽花が色づいています。植物達の逞しさに、私もそうありたいなと思いました。